

サウロの回心とアナニア

使徒言行録 9 : 1 - 19



司祭 ヨハネ 井田 泉

復活節第3主日

2025年5月4日

上野聖ヨハネ教会にて

復活の主が、かつて今も働いておられます。

今日、最初に読まれた使徒言行録は、サウロ（パウロ）の回心の物語でした。こう始まっていました。

「さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。」使徒言行録 9:1-2

「意気込んで」と訳されたところのギリシア語は激しい呼吸を示す言葉で、興奮のあまりに鼻息が荒くなっている、という感じです。サウロのうちに情熱が燃えています。けれどもそれは、暗い情熱です。間違っていると自分が考える人々を脅迫し、殺そうとする熱心。人を憎み滅ぼそうとする情熱です。これは非常に不幸なことですが、自分ではそれに気がつきません。

ダマスコ途上でイエスは彼を呼ばれました。

「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」 9:4

彼はその声を聞き、光に打たれて道に倒れました。彼は目が見えなくなり、人に手を引かれてダマスコに連れて行かれました。

「サウロは三日間、目が見えず、食べも飲みもしなかった」
(9:9) と記されています。ただ目がかすんで見えなくなったというわけではありません。これまで自分がこうだと信じてやってきたことすべてが、わからなくなったのです。自分は神に従って行動してきたつもりだったけれども、実は罪のない人々を脅

迫し、命を奪ってきたのではないか。単に体調を崩して食欲がなくなったというのではありません。自分の過去も現在も未来も、すべて闇に閉ざされた。無実の人の血を流させてきたのが自分だとしたら、身がすくむどころではない。もう生きる資格も力ありません。

けれども、このサウロに新しく使命を与えて生かそう、と復活のイエスは決意しておられます。そのためにイエスは、ダマスコにいる一人の弟子を用いられます。アナニアという人です。

先に「サウル」と呼びかけたイエスは、今度は「アナニア」と呼びかけられます。10 節です。

「わたしはここにおります、主よ」とアナニアは答えました。直訳すれば「わたしです、主よ」です。わたしたちが礼拝堂に來たとき、あるいは家でひとり祈るとき、「わたしです、主よ」「わたしはここにおります」と主に呼びかけることはとても意味のあることです。

イエスがアナニアに命じられたのは、サウロの所に行って彼の上に手を置いて祈ることでした。アナニアは「恐ろしい」と感じました。アナニアは、サウロがダマスコに向かって來ているのを聞いていました。自分もサウロに捕らえられて殺されるかもしれない。そのサウロに何が起こったかを彼は知りません。サウロに会うのは恐ろしい。けれどもイエスはアナニアに「行

け」と言われました。

ここで一つ、彼に励ましを与えたイエスの言葉があります。

「今、彼は祈っている」(9:11)

と言われたのです。祈っているなら、大丈夫かもしれない。アナニアは決意して出かけます。祈りつつ、目的地に向かいます。

「そこで、アナニアは出かけて行ってユダの家に入り、サウロの上に手を置いて言った。」9:17

ここにアナニアの行動について四つことが言われています。アナニアは「出かけて行った」、「ユダの家に入った」。「サウロの上に手を置いた」、そして「言った」。

出かけて行くことに恐れがあり、家に入ることに恐れがあり、サウロに手を置くことに決意がいり、そしてサウロに語りかけることには特別の勇気が必要でした。

けれどもそのアナニアの動作、行動の一つ一つに、復活の主イエスがともにいて、ともに働かれました。

イエスが何かをするようにと人に命じられるとき、何もなしでその人を放り出されるわけではありません。イエスはその人に対して責任を持ってくださる。それはわたしたちに対しても同じです。何かをイエスがわたしたちにさせられるなら、必ず、必要な勇気と力を与えて、わたしたちとともに行き、わたしたちとともに働いてくださるのです。

アナニアはサウロに手を置きました。しかし実は、アナニアをとおしてイエスが手を置いて、サウロに語りかけられたのです。

「悔いているあなたは赦された。あなたのためにわたしは死んで復活した。あなたは再び見えるようになれ。あなたの情熱は、これまでのように人を滅ぼすのではなく、人を生かすものとなれ。あなたはわたしの名を宣べ伝える者となれ。」

17 節を見ましょう。

「兄弟サウル」

これはアナニアがサウルに呼びかけた言葉です。恐ろしい敵対者であったのに今は「兄弟サウル」です。イエスがサウロを兄弟として受け入れられたから、アナニアも「兄弟サウル」と呼んだ。

「兄弟サウル、あなたがここへ来る途中に現れてくださった主イエスは、あなたが元どおり目が見えるようになり、また、聖霊で満たされるようにと、わたしをお遣わしになったのです。」 9:17

単に視力が回復するものではありません。自分を愛して出会ってくださったイエスを心の目で、霊の目で見ることができる。これまで見えていなかった自分を、これまで見えていなかった隣人と世界を、新しく彼は見るのです。

聖霊が、イエスの霊が、イエスの慰めと力がサウロの中に満

ちてきます。もう自分は終わりだ、滅びだと思ったのに、そうではない。罪を赦されたことの感謝と、新しく生きるようにと励まされた喜びと、新しい使命を授かったありがたさが彼の心と体に満ちて、自然に涙が溢れてきます。

その涙とともに、目からうろこのようなものが落ちて (9:18)、彼は見えるようになりました。三日前、復活のイエスの光によって倒れて見えなくなった目は、今、復活のイエスの光によって新しく開かれました。最後にこう書かれています。

「そこで、身を起こして洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。」 9:18-19

この復活のイエスとの出会い、そして洗礼。ここから新しい彼の人生が始まりました。サウロからパウロへと彼は変えられていきます。一説によると、「サウロ」とは「求める」という意味、「パウロ」とは「小さい」という意味だそうです。心の底で真理を求めていたサウロは、復活のイエスと出会って洗礼を受け、自分の大きさではなく小ささを知らされた、ということかもしれません。しかし人の小ささ、弱さを通してイエスは働かれるのです。

彼は後に手紙の中でこう言っています。

「すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』と言われました。だか

ら、キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。」 コリントⅡ 12:9

アナニアがいなければ伝道者パウロは誕生しませんでした。新しいサウロ（パウロ）を誕生させたのは、アナニアとともに働かれた復活の主です。願わくは、わたしたちも小さなアナニアになりたい。復活の主から勇気を与えられて、できることをなしたいと願います。

主イエスさま、わたしたちがあなたのために、人のために働くこうとするとき、勇気と力をお与えください。あなたがアナニアとともに働かれたように、わたしたちとともに働いてください。アーメン